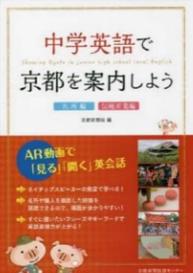
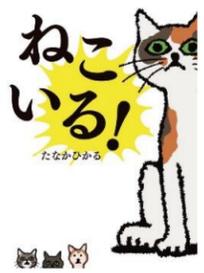
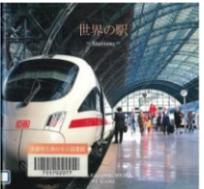
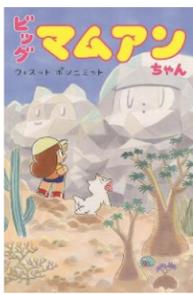


表紙	タイトル	著者	出版社	コメント（紹介した年）	分類番号
	図書館にまいこんだ こどもの大質問	こどもの大質問編集部 ／編	青春出版社	図書館の「レファレンスサービス」をご存知ですか？ 簡単に言うと、「調べ物のお手伝い」であり、近くにある図書館で誰でも利用できるサービスです。 この本は、全国各地の図書館のレファレンスサービスに寄せられた、子どもたちの質問をまとめた本です。 素朴な疑問や、はっとさせられる質問に、司書が様々な資料から回答を探し出します。 類書の『100万回死んだねこ』もおすすめです！ぜひ読んでみて下さい。 (2024. 3)	015
	知識ゼロでも楽しく読める！ 哲学	青木滋之／監修	西東社	哲学って「堅苦しい」「難しい」というイメージですが、いえいそんなことはありません。 この本では、難しそうな「哲学」を分かりやすい文とイラストで説明しています。 誰でも一度は考えたことのある“幸せって何だろう？”、“何のために生きているのか”などの“問い”や、“人間は考える葦である”、“コペルニクス的転回”など良く聞くワードも解説されています。 タイトル通り“知識ゼロ”でも読めるので、色々な考え方に触れてみませんか？ (2024. 3)	100
	クイズdeデザイン	ingectar-e／著	SBクリエイティブ	「分かりやすいのはどっち？」「意味が伝わりやすいのはどっち？」というような2択、時には4択のクイズ形式で“良い方”のデザインを選んでいきます。 解説やコラムも充実していて分かりやすいです。 ゲーム感覚で読むうちに、デザインの知識が自然と身につくかもしれません。 趣味と実益を兼ねた1冊です。ぜひ楽しんで下さい！ (2024. 3)	674
	あなたのなつかしい一冊	池澤夏樹／編	毎日新聞出版	なつかしい映画、なつかしい音楽、なつかしい風景。人それぞれなつかしい何かがあります。 『あなたのなつかしい一冊』をひもといてみて下さい。誰かのなつかしい一冊があなたにとって心に残る一冊になるかもしれません。 (2024. 3)	019

	<p>中学英語で京都を案内しよう</p>	<p>京都新聞社／編</p>	<p>京都新聞出版センター</p>	<p>観光名所を英語で案内するのに難しいフレーズは必要なく、中学校で習った英語で十分です。 この本では“名所編”、“伝統産業編”として京都新聞に連載されていた記事が分かりやすくまとめられています。 巻末にはMAPやよく使うフレーズものっていて調べやすいです。 まずは近くの名所から、英語で案内を始めてみませんか？ (2024. 1)</p>	<p>L837</p>
	<p>折り鶴クラフト</p>	<p>森本美和／著</p>	<p>講談社</p>	<p>「鶴」の折り方を覚えていますか？ 「羽ばたく鶴」や「連鶴」など、色々な種類がありますが、この本では基本的な「鶴」の折り方ひとつで様々なアート作品を展開しています。 小さな鶴たちが「ミニ盆栽」や、「壁飾り」、「アクセサリ」など沢山の作品に変身していて、見ているだけで楽しくなります。 試しに1羽、本を見ながら折ってみると意外とハマるかもしれませんよ。 (2024. 1)</p>	<p>750</p>
	<p>楽しい雪の結晶観察図鑑</p>	<p>武田康夫／文・絵</p>	<p>緑書房</p>	<p>冬になり、雪が降ってもその結晶にまで気づくことは、まずありません。 子どもの頃、雪に結晶があることに気づいた作者が、工夫を重ね撮影した写真や、観察方法などが解説されています。 雪が降ったら、この本を片手に結晶を探しに行ってみませんか。 (2024. 1)</p>	<p>451</p>
	<p>なぜあらしうの？</p>	<p>ニコライ・ポポフ／作</p>	<p>BL出版</p>	<p>この本は、字のない絵本です。ページをめくるごとに、絵が語ってくるものがあります。 小さな子どもにも、今世界各地で起こっている紛争が始まるきっかけや、恐ろしさがわかると思います。 最後にある“作者のことば”まで、作品を味わってください。 (2024. 1)</p>	<p>E/ナ</p>
	<p>このあかいえほんをひらいたら</p>	<p>ジェシー・クラウスマイヤー／文、スージー・リー／絵、石津ちひろ／訳</p>	<p>講談社</p>	<p>“このあかいえほんをひらいたら…” タイトルと同じ文章から始まる不思議なお話です。 幼い頃経験したような、ページをめくると次は何が待っているのか、わくわくドキドキするあの感覚を思い出します。 ・ゆっくり ページをめくって よんでみてください。 ・シンプルなしかけなので そうぞうりよくが しげきされます。 (2023. 11)</p>	<p>W/Eコ</p>

	ねこいる！	たなかひかる／作	ポプラ社	<p>ねこいる？ねこいない？ 意外な所から飛び出すねこたち。 よく目を凝らすと隠れている姿も見えてくる。 勢いが楽しく、クセになる絵本です。 (2023. 11)</p>	E本
	ぼくは本のお医者さん	深山さくら／文	佼成出版社	<p>あなたは、本が壊れたらどうしますか？ この本に出てくる“齋藤英世”さんが、山形県で製本業をしながら、どの様なきっかけで本を直すお医者さんとなったのかや、最初に手がけた本の修理のしかたなどが書かれています。 捨ててしまうのではなく、大切に本を扱いたいと思わせられる本です。 (202. 11)</p>	02
	かがくいひろしの世界	沖本敦子／編	ブロンズ新社	<p>『だるまさんと』や『おしくら・まんじゅう』など、楽しく子どもに人気がある本を書かれた“かがくいひろし”さん。 絵本作家として50歳でデビューされ、4年後に病気でこの世を去られたのですが、この本には、未発表の作品も収録されています。 あなたもより深く“かがくいひろし”の世界をのぞいてみませんか。 (2023. 11)</p>	726
	世界の駅	三浦幹男／写真	ピエ・ブックス	<p>パラパラとページをめくると、世界中の駅が並んでいます。 文字はほとんどありませんが、ぼんやりと眺めているだけで、まるで静かに一人旅をしているように感じられます。 かの有名な9と3/4番線ホームのある駅も載っていますよ。 (2023. 9)</p>	686
	ダチョウはアホだが役に立つ	塚本康浩／著	幻冬舎	<p>ダチョウが感染症対策に大活躍って知っていますか？その名も「ダチョウ抗体」！ 京都府立大学・学長が発明した「ダチョウ抗体マスク」は、コロナ禍でも沢山の需要があったとか。 少し難しい内容もありますが、こてこての関西弁で書かれているので、塚本学長から直接話を聞いているかのようにすらすら読めます。 (2023. 9)</p>	646

	<p>ビッグmamアンちゃん</p>	<p>ウィスット・ポンニミット／著</p>	<p>ビッグイシュー日本</p>	<p>“mamアン”というのは、タイ語で“マンゴー”を表すそうです。マンゴーのような顔の主人公が登場する4コマ漫画です。mamアンちゃんが発する言葉は奥が深く、哲学や人生訓を感じます。読んでいて時にホロリと、またハッとさせられる、そんな一冊です。 (2023. 9)</p>	<p>726</p>
	<p>謎解きガイドブック 京都 —陰陽師が隠した宝物—</p>	<p>朝日新聞出版／編集</p>	<p>朝日新聞出版</p>	<p>—あなたは京都の名所に隠された謎が解けますか？— LINEを使ってネコ探偵と連絡を取り、陰陽師が残した宝物を探し出せ!! 現地で観光しながらや、自宅でもオンライン謎解きが楽しめます! 友人や家族と、お出かけのおともにいかがですか? (2023. 7)</p>	<p>L291.6</p>
<p>NO IMAGE</p>	<p>暇な人、謎解きで もしませんか?</p>	<p>暇謎／著</p>	<p>幻冬舎</p>	<p>暇な人は全部一気に! 暇じゃない人は息抜きに1問2問、謎解きしてみませんか? この本では、レベルが3段階に分けられた謎が全60問載っています! 最初のほうは、簡単なひらめきで解けるのでさくさく進みますが、段々と手強くなってきて解きがいがあります。 ヒントもあるのでぜひ挑戦してみてください! (2023. 7)</p>	<p>798</p>
	<p>誰にも相談できません</p>	<p>高橋源一郎／著</p>	<p>毎日新聞出版</p>	<p>毎日新聞の読者から寄せられたお悩み相談に、高橋源一郎が時に優しく、時に厳しく回答する。 続編『居場所がないのがつらいです』と共に読んでみてください。 自分の身を改めねば…と覚悟があるかもしれない。 (2023. 7)</p>	<p>914/タ</p>
<p>NO IMAGE</p>	<p>ぞうのエルマー</p>	<p>デイビッド・マッキー ／ぶん・え 安西徹雄／やく</p>	<p>アリス館</p>	<p>エルマーは、パッチワークのぞう。 何故自分は、他のぞうと違うのだろうと悩んだりしますが… 訳者によって味わいも違います。当館所蔵の“安西徹雄”訳と、“きたむらさとし”訳を比べてみてください。 (2023. 7)</p>	<p>Eゾ</p>

	<p>北欧式 眠くならない数学 の本</p>	<p>クリスティン・ダール ／著 スヴェン・ノードク ヴィスト／絵 枇谷玲子／訳</p>	<p>三省堂</p>	<p>数学って楽しいかも…！ 数学の本と言うと、とても難しそうに聞こえますがこの本は違います！イラストや身近な例が多用されていて読みやすく、理解がしやすいです。また、数学の定義や公式を使った遊びも紹介されているので、実際に遊びながら考えることができ、親子で楽しむことができます。 著者は「わたしたちはみんな数学者です」と書いています。 この本を読んで、あなたも不思議で楽しい数学の世界に触れてみませんか？ (2023.5)</p>	<p>410</p>
	<p>ペギー・スー[1] 魔法の瞳をもつ少 女</p>	<p>セルジュ・ブリュソロ ／著 金子ゆき子／訳</p>	<p>角川書店</p>	<p>誰にも言えない・言っても信じてもらえない不思議な力を持つ少女が主人公。 人間を、宇宙を守るため、知恵と勇気で悪いおばけに立ち向かう！ 大人も子どもも楽しめる、スリル満点のお話です!! (2023.5)</p>	<p>953/7*</p>
	<p>どっちがどっち まぎらわしい生き ものたち</p>	<p>梁井 貴史/著</p>	<p>さくら舎</p>	<p>似て非なる生きもの、例えば“ドジョウ”と“ナマズ”、あなたはどこがどう違うのか、説明できますか？また同じ“シャコ”という名前ですが違う生きものがあるなど、いろんな生物がイラストを交えて紹介されています。名前の由来なども書かれており、これを完読すれば、あなたも立派な生きもの博士になれるかもしれません！ (2023.5)</p>	<p>480</p>
<p>NO IMAGE</p>	<p>きみに聞いてほしい 広島に来た大統領</p>	<p>池上彰/翻訳 葉祥明/ 画</p>	<p>徳間書店</p>	<p>昔の戦争で唯一核爆弾を落とされた日本に、アメリカの大統領が初めて訪れた2016年。その時の演説文が書かれた本です。核兵器の持つ力がいかに凄いのか、今ウクライナとロシアの戦争を目の当たりにしているからこそ、この本を読んで平和の大切さを考えたいと思います。子どもも大人もぜひ読んでみて下さい。 (2023.5)</p>	<p>319</p>